

6. まとめ（本報告書の提言）

・「提言」はその内容によって、次のように分類して整理する。これまでに事務局に届いた「提言」は、この分類で仕分けしている。（カッコ内の数字は、もともと付いていた番号）

加速器を用いた研究開発の広報に関する提言

加速器に関わる人材育成に関する提言

加速器を用いた研究開発を進めるにあたっての提言

・「提言」の順番（報告書の記載順序）は、上の分類の の順。
（添付の（補足）を参照）

【 】 加速器を用いた研究開発の広報に関する提言

（ 10 ） 新しい広報のあり方に関する提言（粟屋委員）

（社会への情報発信に関する纏め）

加速器は時代の先端的研究が行われる場であると共に、その時代の最新の技術を集約して作られた施設である。世の人々の科学的好奇心を呼び起こすために、また若い人たちの心に未知なるものを知る感動や科学に対する可能性の夢を育むために、この場から今後一層の情報発信を行うことが望まれる。予算や人をこの目的のために充当した上で、情報発信（広報）に関わる様々な専門家の協力を要請することが重要である。

【 】 加速器に関わる人材育成に関する提言

（ 5 ） 大学における教育の充実と小型加速器の有効利用（谷畑委員）

大学においては所有する小型加速器を利用し、加速器学や放射線関連のカリキュラムを充実することが望ましい。また、教育を受け習得した技術のメリットを示す身分（例えば加速器技術士）の創設を提案する。

（ 9 ） 人材育成の節で最も言いたい点一つ（大学、研究所、産業界全ての場所で必要である）（曾我委員）

【 】 加速器を用いた研究開発を進めるにあたっての提言（施設運営、国際協力、産学官連携など）

（１）加速器計画検討の常設委員会の設置（谷畑委員）

我が国における加速器計画を広く検討し、加速利用分野ごとの将来も見据え、建設計画を精査し建設予算計画のストラテジーを検討することを始め、広く我が国の研究や利用の方針を検討するための場を提供する。

（２）国際分担の明確化（谷畑委員）

大型加速器については、常に国際状況を把握し、日本としての分担を明確にするべきである。

（３）加速器建設・運営の考え方（谷畑委員）

加速器建設・運営に当たっては、世界のセンター、アジアセンター、全国センター、地域センターなどを明確に区別しつつ、一極集中をさげ、組織独自の運営方式を重んじる。

（４）新しい加速器建設方式（谷畑委員）

加速器建設の進め方として、新しく建設請負方式や、建設分担方式を取り入れる。またこれらが可能となるような予算制度を作る。

（６）組織間の連携強化（谷畑委員）

大型施設を持つ大学や研究所と、その他の大学や研究所の連携を強化し、自由に乗り入れる形での研究を連携研究として強く進める。また法人にまたがった研究を進められるような競争的資金を作ることが望ましい。

（７）産官学連携（小林委員）

従来の産学官連携における様式は学・官における先導的な研究開発があり、「光源駆動型開発研究」Source-Driven R&D と言うことが出来る。今後の連携課題としては、先駆的な独創的加速器技術と実際の現場で使える技術の融合画必要で、（１）応用のニーズにどう対応するかという考え方と、（２）応用のニーズをどのように開拓して行くかと言うことが大切であり、そこに

至るシナリオをきちんと用意しておくことが必要である。これは、「プログラム駆動型研究開発」(Program-Driven R&D)とすることができるであろう。実用化における取り組みにおいて、ニーズを調査するだけでなく、ニーズを積極的に開拓等が極めて重要であり、そのためにも着実な研究開発への投資・環境整備、継続的な人材育成が必要である。

(8) 規制緩和のうち最も重要なものを抜き出して提言 (高橋委員)

(補足)

まず、加速器を用いた研究開発を今後も我が国が進めていく必要があるということ国民に理解してもらうことが必要であることから、こういった内容の提言を『加速器を用いた研究開発の広報に関する提言』に分類して最初に述べる。

ここでは

- ・「この冊子をお読みになる前に」で示したように、加速器を用いた研究開発は国民の暮らしに役に立つ世界と結びついていることを示し、これを進めていく必要があるということ
- ・加速器の必要性(加速器が無いと何が困るのか)を示すこと。また、大型加速器計画についてこれを進める必要があるということ
- ・なぜ、日本が加速器の研究開発を進め、加速器の研究開発においてトップを走る(優位に立つ)必要があるのかということ

こういったことを、国民に理解しやすく説明することが、まず必要であるといった内容で提言をまとめる。

次に、加速器に関わる人材育成に関する提言について述べる。

ここでは、加速器の研究開発に関わる人材を増やす/育成するための提言をまとめる。内容的には、大学での教育や、研究所・産業界での人材育成について述べ、加速器を用いた研究開発の世界が魅力あるものであることをアピールするような提言とする。

3番目に、加速器を用いた研究開発を進めるにあたっての提言について述べる。

ここでは、我が国が加速器の研究開発において世界の中でどういう位置にいることを目指すのか、そのために何をするのかといったことを提言としてまとめる。

提言全体として、前回の会議でも議論があったように、この報告書が誰に対してメッセージを発信するものなのかを十分踏まえたものになるようにする。(決して加速器コミュニティへのメッセージ発信では無いということを考慮する)